

2月3日(水曜日)

ドル/円

米経済指標と欧州委員会の提言に注意

2日(火)の主な推移

NYダウ平均

10296.85ドル
(+111.32ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.6366%
(-0.0194%)

NY原油先物

77.23ドル
(+2.80ドル)

チャート: 30分足 2日(火)朝7時 ~ 3日(水)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

0.25%の利上げが予想されていた豪州の政策金利が3.75%に据え置かれた上、豪中銀が声明にて「しばらくの間、現水準で据え置くことが適切」と発表すると、豪ドル/円が豪ドル安・円高に転換。ドル/円もこれに連れて円買い優勢の展開となった。

②

ギリシャに対する信用不安が若干後退したことでユーロに対してドル安が進んだことや、米長期金利の低下を背景にドル/円はドル安・円高となった。

③

米経済再生諮問会議のボルカー議長が議会証言を行い、「政府は自己勘定取引に対して安全網を広げるべきでない」「金融機関の自己勘定取引はリスク」「目標とすべきは救済でなく安楽死」などと発言。ただし、事前に報道されていた証言原稿との大きな違いはなく、相場の反応は限定的だった。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.90-91.10円

本日は5日発表予定の米雇用統計の前哨戦とも言うべき民間雇用関連指標のADP全国雇用者数や、ISM非製造業景況指数など、比較的注目度の高い経済指標の発表が予定されている。双方ともに前回よりも改善すると予想されており、予想を上回ればドル買い材料、下回ればドル売り材料視される公算が大きい。

また、本日19時からは欧州委員会がギリシャの財政赤字削減計画についての意見を発表する予定となっており、これが波乱要因となる可能性もある。欧州委員会がギリシャの計画を肯定的に見て、かつユーロ/円相場がユーロ高・円安が進むならば、それにつれてドル/円でも円売り優勢で推移すると考えられる。逆に、ギリシャの計画では不十分という見解が示されてユーロ安・円高の展開となれば、ドル/円も円高で推移するものとみる。

もっとも、5日の米雇用統計が視野に入り、いよいよ手控えムードが広がりつつある中では、例えこれらの手掛かり材料を受けてドル/円相場に方向感が出たとしても、値幅は限られる可能性が高いことも留意しておきたい。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/3(水)	22:15	○	(米) 1月ADP全国雇用者数	-8.4万人	-3.0万人
	24:00	○	(米) 1月ISM非製造業景況指数	50.1	51.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com